

令和4年度 学校評価

重点目標	①自主自律の意識を向上させ、学習・部活動・学校行事などに積極的に取り組ませる。 ②令和4年度から実施する新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善を進めるとともにICT機器の効果的な利用方法や観点別評価について研究を深める。 ③あいち・アドバンスト・ラーニングネットワーク事業を推進するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもって国際理解教育を推進する。 ④学校生活全般の様々な指導を通して、自他の生命の尊重と規範意識の高揚を図る。 ⑤それぞれの目線ととらえた生徒の情報を共有することで、生徒に対する、より多面的で深い理解を得るよう努める。 ⑥勤務時間を適切に管理し、業務の適正化を図るとともに教職員のメンタルヘルスの保持と健康障害の防止に努める。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学校行事 (総務課)	*学校行事の充実と円滑な運営  *PTAとの連携の推進	*職員・PTA・同窓会との連絡を密にして意見を集約、調整する。	*PTAとの連携を密にすることにより、学校祭や創立60周年記念に付随するPTAの諸活動が円滑に実施された。 *同窓会との連携を密にすることにより、特に60周年記念行事において多大な協力を得た。
安全 (総務課)	*防災意識の向上を図る。  *地域の避難所としての役割を果たす。	*避難訓練や防災教育等を計画的に実施する。 *北一社学区の自治会と連絡をもち、万一の場合、意思疎通ができるようにする。 *本校が避難所となることを含めた包括的なマニュアルを作成する。	*グラウンドへの避難訓練を実施し、課題を発見、改善できた。 *防災安全マニュアルの改訂を行い、より実践的な内容に改めた。 *避難所としての学校施設の活用の在り方は、引き続き地域及び行政と連携して改善する必要がある。
学習指導 (教務課)	*授業改善に取り組む。	*生徒の興味を引き出す授業を行う。  *発見学習・問題解決学習・調査学習など参加型学習を授業に取り入れる。  *授業公開と参観を推進する。	*研究授業において、内容や方法に工夫がみられる授業が多く実施された。 *WWL事業の実施に伴い総合的な探究の時間に調査・発見・問題解決型の学習活動の発表会を行った。 *春・秋の授業公開週間に合わせ研究授業が多く実施され教員間で授業に関する意見交換がなされた。
生徒指導 (生徒課)	*自己を律する力を身につけさせる。 *規範意識を高めさせる。 *いじめの未然防止に関わる取組の充実を図る。	*遅刻を減らし、基本的な生活習慣を確立させる。 *身だしなみの意識を高めさせる。 *人権に対する意識を高めさせる。 *情報モラルの意識を高めさせる。 *生徒会活動・学年との連携を深める。 *全校集会やホームルーム活動を通じていじめ問題を主体的に考える機会を設ける。	*遅刻は大幅に増加した。精神的不安な生徒も多いが、安易な不注意の遅刻も多いのが現状である。 *服装に関する規則が守られていない生徒が多い。根本的な解決のため、現状の校則に至った経緯を説明し、校則委員会を立ち上げ現状に見合った校則を改めて検討する機会を設けた。 *学校生活・迷惑調査を滞りなく実施することができた。
特別活動 (特活課)	*初動の充実  *生徒会活動の情報発信  *過去に縛られず、実現可能な行事の運営を目指す	*学校全体で取り組む姿勢を育めるよう、室長等のリーダーたちと連携を深める。 *縦割りLTを通じて学年を超えた生徒同士の繋がりを強める。 *各委員会・各部活動の目標・課題を共有させる。	*今年度は多くの行事を行えた。この3年間の中ではコロナ前の状況に一番近い形で様々な行事を行えたことは大きなことである。その要因としては、運営委員の生徒の努力が大きかった。 *行事全体を通して質が低下してきているように感じる。内容を深める必要がある。 *全体のことを考えた行動というより、個人的な主観で行動する生徒が増えてきた。本校の「生徒主体」「自主自律」が違う形で主張されてきているように見える。生徒の中にはこのことについて心配している者もいる。来年度は学校を活気づけるために何に取り組むのかを生徒とともに考え、学校全体が活気づくようにしたい。
進路指導 (進路課)	*自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択・決定できるように、キャリア教育を推進する。	*キャリア教育を推進する。 *実力考査のあり方と資料の充実を図る。 *2年次の学習意欲の低下を防ぐ。 *校外模試の有効利用を図る。	*職場体験学習などのキャリア教育は労働観を養う重要な機会であり、多くの生徒に参加させたい。 *過年度累積の進路資料を作成し本校の進学事情を可視化させることができた。 *校外模試の新しい校内実施方法を導入できた。 *2年生を含めた低学年の進路意識の管理をした。
学校保健 (保健厚生課)	*生徒の健康状態把握  *教育相談の充実  *清掃活動の充実	*学校生活において生徒が健康的に過ごすことができるように支援する。  *SCや外部との連携も図りながら生徒の精神的不調にチーム対応を行う。  *清掃活動を充実させ校内美化に努める。	*健康観察の結果を活用することにより、情報連携及び行動連携を速やかに行い、生徒の健康管理に役立てることができた。  *生徒の精神的不調に関して、校内連携を密にし、チームで対応することで改善された事例があり、今後も早期対応していく。
図書指導 (図書館課)	*生徒の読書意欲の向上  *図書館設備の充実  *視聴覚教室の整備	*生徒の読書意欲が向上するような方策を図る。  *図書館の利便性の向上を図る。  *視聴覚教室の整備を行う。	*清掃活動について今後も充実を図っていく。 *読書意欲が向上するような特別な方策を打つことができなかった（貸出数前年比減）。 *図書館の利便性を図るため、貴重品ロッカーを設置、貸出用コンピュータの新規購入、図書館管理システムNoahのバージョンアップを実施した。 *3年ぶりに文化講座を図書館課主催で2回開催することができた。 *視聴覚教室の机を可動式のものに入れ替えた。音響設備の充実を図ることができた。古い不用機器廃棄を処分することができた。
国際理解教育 (国際課)	*SDGsに学校全体で取り組み、国際理解教育・国際交流を推進する。  *国際教養科の充実・発展を図る。	*国際理解を深めるための啓発活動(国際課通信の発行、留学体験報告など)を継続して行う。 *国際理解講演会、異文化講座、海外研修など国際課が主催する行事の一層の充実を図る。 *留学生の受け入れを積極的に行う。 *海外進学や留学、海外への派遣事業などの情報を伝達し、希望する生徒への支援を行う。 *外国人講師との連携を密にし、国際教養科の授業内容を一層充実したものにしていく。 *「グローバル探究」の円滑な実践と研究を推進する。	*文化委員会と連携し、国際課通信を年6回発行し、国際理解講演会や異文化講座の内容、また、グローバル探究の授業内の特別講義を記事にし、全校生徒・教員と情報共有することができた。 *国際理解講演会や異文化講座は、事前の打ち合わせや準備等もしっかりと行い円滑に実施することができた。アンケート結果より、どちらも生徒にも大変好評であったことが伺え、大きな学びの機会を提供でき、国際理解を深めることができた。 *外国人講師と綿密に連絡を取り、日常の授業や成績処理等円滑に進めることができた。 *今年度は2学年となったが何とか軌道に乗せることができた。来年度は一層充実した取り組みをしていきたい。

いじめ防止基本方針に基づく取組	年に2回実施する学校迷惑調査や日常の観察により、全職員でいじめのサインを見逃さない環境づくりに努めた。適宜、いじめ防止対策委員会を設け、いじめの未然防止に努めた。ホームルーム活動においても、担任からの声掛けにより、生徒が主体的にいじめについて考える機会を設けた。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組	職員会議のペーパーレス化、時間割内での会議実施等により、勤務時間を適切に管理し、業務の適正化を図るとともに教職員のメンタルヘルスの保持と健康障害の防止に努めた。
総合評価	<p>①コロナ感染が少しずつ収まり活動制限が緩和される中、学習活動・生徒会活動・部活動に主体的に取り組ませることができた。</p> <p>②新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善を進めるとともにICT機器の効果的な利用方法や観点別評価について研究を深めることができた。</p> <p>③あいち・アドバンスト・ラーニングネットワーク事業を推進するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもって国際理解教育を推進できた。</p> <p>④学校生活全般の様々な指導を通して、自他の生命の尊重と規範意識の高揚を図るよう努めた。</p> <p>⑤職員間で連携を図り生徒の情報を共有することで、生徒に対する、より多面的で深い理解を得ることができた。</p>